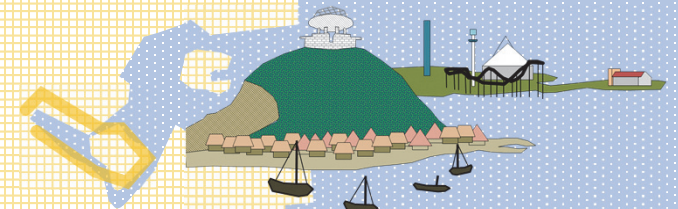
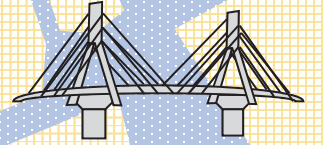
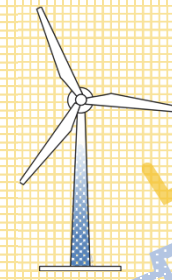
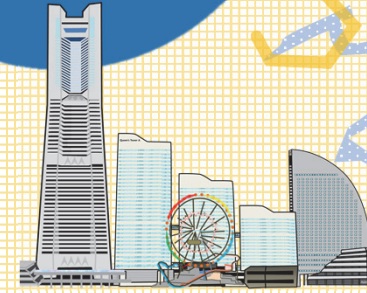


アンケートご協力をお願い!

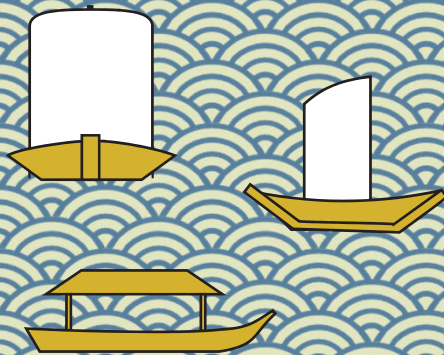
「よこはま海さんぽMAP」の満足度について、
全6問の簡単なアンケートを実施しています。
ぜひ皆様のお声をお聞かせください! 右の二次元
コードからアンケートページにアクセスできます。



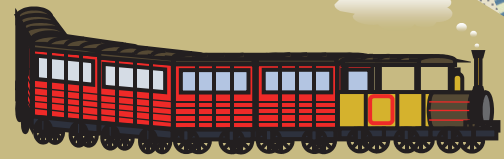
よこはま 海さんぽMAP



出典: 表紙の地図は、国土地理院の「標準地図」
をもとに作成しています。



出典: 裏表紙の地図は、国土地理院古地図コレクションサイト
(<https://kochizu.gsi.go.jp/>) の「迅速測図原図(フランス式彩色図)」
をもとに作成しています。



よこはま海さんぽMAP

作成 横浜市環境科学研究所

〒221-0024 横浜市神奈川区恵比須町1番地
澁澤ABCビルディング1号館5階

TEL: 045-453-2550 FAX: 045-453-2560

Eメール: mk-kanken@city.yokohama.lg.jp

ウェブサイト: <https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/machizukuri-kankyo/kankyohozen/kansoku/science/>

令和3年3月初版発行

令和6年12月第四版発行

本マップは、令和6年2月の情報に基づき作成されたものです。

よこはま海さんぽMAPについて

横浜といえば「海」。そんなイメージを持たれる方も多いのではないのでしょうか。横浜の海は埋立の歴史とともにだんだんと変わってきました。それでもまだ自然の海岸線が残るところ、干潟や小さな砂浜がみられるところ、生き物が見られるところもあります。このMAPのなかではそんな場所も紹介しています。海さんぽを通して、より多くの人に楽しみながら横浜の海について興味を深めていただければ幸いです。

“海さんぽ”の楽しみ方

海の生き物

横浜のような都会の海でもいろいろな生き物がいます。岸壁にはカキ、砂浜には海藻や貝、カニも。海が好きな鳥も集まります。

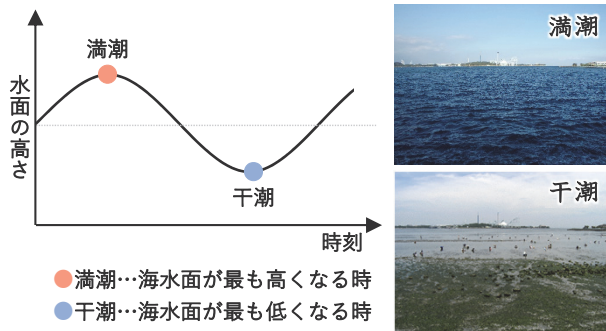
| | | | |
|--|--|--|--|
| <p>ミドリイガイ 海外から日本に 来た貝。 貝殻はきれいな 青緑色。</p> | <p>アマクサ アメフラシ 秋に大量に砂浜 にうち上がって いることも。 触ると柔らかい。</p> | <p>ゴカイのなかま のフン 砂浜で見られま す。面白い形。 ぶるぶるの塊は ゴカイのたまご。</p> | <p>ワカメ 海の中にあるワ カメは普段見る ワカメと色が違 います。ゆでる ことで色が変化 します。</p> |
| <p>アオサ 夏に増えすぎて 砂浜の波打ち際 一面を覆ってし まうことも！</p> | <p>アメフラシの なかまのたまご 「海そうめん」 とも呼ばれます が、どちらかと いうとラーメン みたい？！</p> | <p>クサブグ 体はきれいな水 玉模様。体に毒 を持っています。</p> | <p>ハゼのなかま 下の砂利にまぎ れて敵に見つか らないようにし ているよ。</p> |

旧海岸線

このMAPには旧海岸線（明治時代）のおおよその位置が描かれています。昔から海と近かった横浜ですが、時代とともに埋め立てが進み、海岸線も変化していきました。横浜の海岸の変化を感じながら歩いてみましょう。普段は見えていなかった奥深い横浜の海の歴史が見えてくるかもしれません。

潮位

海では、主に月の引力によって海面の高さが変化します。それを潮位と言い、場所や時刻によって異なります。海さんぽに行く際は、潮位を調べてから行ってみましょう（インターネットなどで調べることができます）。潮位によって見える景色や見える生き物が全然違います。野島海岸などで干潟の生き物を見るには、最も潮位の差が大きい、大潮の干潮時がおすすめです。



写真を撮る

順光では海は鮮やかな青に映ります。日が低いとき（朝や夕方）逆光の位置ではキラキラとしたモノトーンの色が撮影できます。太陽の高さや方向を意識すると、いろいろな海が楽しめます。また、水平線が傾かないように撮影するのもいい写真のポイントです。



気をつけてほしいこと

- ・住宅地や寺社では静かに歩きましょう。
- ・生き物を触りすぎたり、暑いところにおいておくと弱ってしまう場合があります。
- ・生き物の観察をしたら元の場所に返しましょう。また、石などを動かしたら元に戻しましょう。
- ・ごみは持ち帰りましょう。

地図の凡例

- トイレ
- 24h コンビニエンスストア
- 信号機
- 神社
- 寺院
- 博物館・資料館
- 休憩ポイント
- フォトスポット
- チェックポイント (注目してほしいところ)

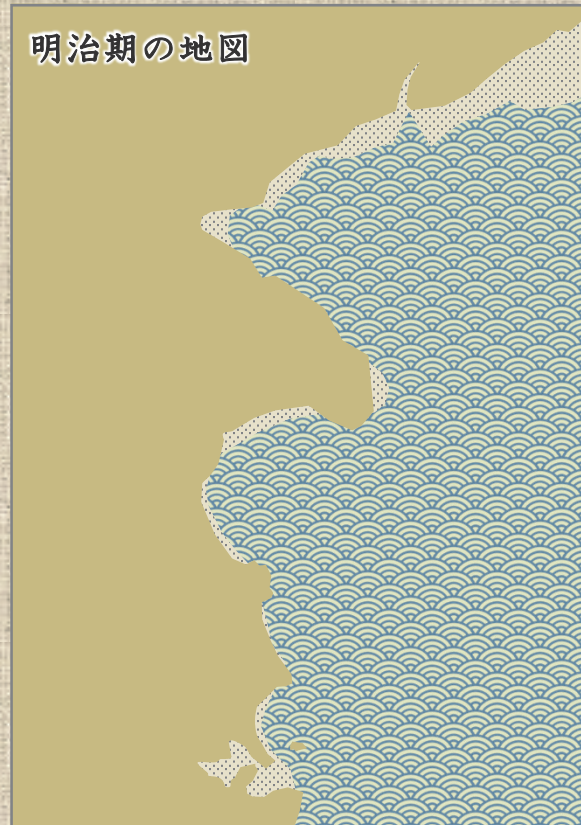
本マップの
ダウンロードは
こちらから



横浜の埋立の歴史

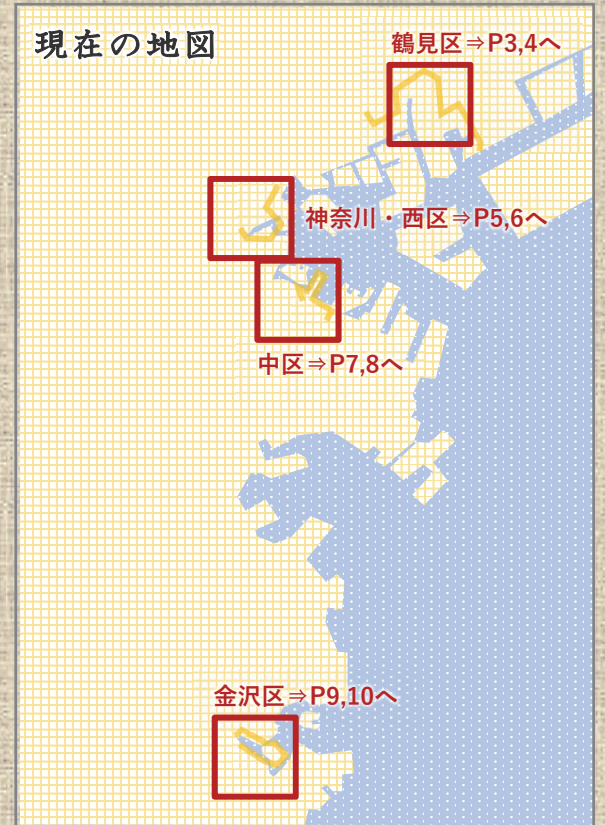
横浜の海は、埋め立ての歴史とともに変化してきました。ここでは、横浜の海とは切り離すことのできない埋め立ての歴史を紹介します。

明治期の地図



この地図は、国土地理院古地図コレクションサイト(<https://kochizu.gsi.go.jp/>)の「迅速測図原図(フランス式彩色図)」をもとに作成しています。

現在の地図



この地図は、国土地理院の「標準地図」をもとに作成しています。

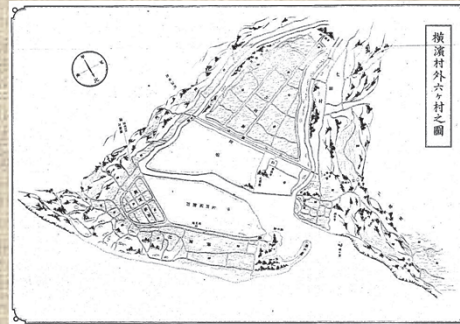
このMAPでは、表紙に現在の横浜の海岸線の絵図、裏表紙に明治期の横浜の海岸線の絵図を載せています。比較してみると、ほとんどの海岸が埋め立てられていることに気付くと思います。

横浜の埋め立ての歴史は江戸時代初期、吉田新田に始まります。当時、横浜のように坂が多く平地の少ないところでは、埋め立てが行われ、食料を作るための農地として利用されてきました。その後、横浜の埋め立ての目的は港湾整備や、工業地帯・娯楽施設の設置など、時代とともに変化していきました。現在横浜市は、北海道小樽市に次いで2番目に埋め立て面積が大きい市町村です(「平成25年全国都道府県市区町村別の面積」国土交通省国土地理院より)。

横浜の海岸線は約140km。神奈川県海岸線の長さは約430kmなので、横浜の海岸線は神奈川県海岸線の約三分の一を占めます。しかし、立入が禁止されている海岸もあるため、このうち実際に歩くことができるのは約14kmしかありません。

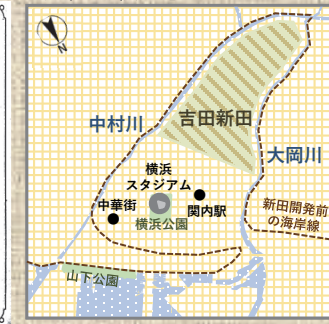
吉田新田

「横濱村外六ヶ村之図」



横浜市中央図書館所蔵
『横浜沿革誌』書誌番号3-0190481852 所収

「現在の横浜」



横浜市地形図複製承認番号 令2建都計第 9010 号)
(横浜市都市計画図をもとに作成)

吉田新田は、阪東橋や伊勢佐木長者町のあたりが釣り鐘状の入海だった頃、新田開発の1つとして吉田勤兵衛によって埋め立てられました。

現在観光地としても多くの人でにぎわう、中華街や横浜スタジアムや山下公園も昔は全部海でした。

この地域の一部は、吉田勤兵衛に因んで「吉田町」と名付けられ、今でも町名としてその歴史が残っています。